

# 平成18年度 土木の日記念展示

# みやぎの土木遺産

## 後世に伝えたい私たちのランドマーク

はじめに

11月18日は土木の日

土木遺産は、公共的な目的で造られたものです。私たちの生活を豊かにするという役割を果たしつつ、歴史的に地域と密接な関わりをもってきました。そして、橋、トンネル、鉄道、ダム・堰、水門、運河、港湾、灯台、発電所、上下水道など、実に多彩で魅力的な形で、地元のランドマーク的な存在として現代に残っています。

本展示会では、私たちの身近に残る宮城県の近代土木遺産を紹介することで、土木遺産の技術的意義や歴史的・地域的意義を見直し、土木工学の価値を再認識していただきたいと思います。

会場： 図書館工学分館 エントランス

期間： 11月13日（月）～11月30日（木）

# みやぎの土木遺産 所在地マップ



# 野蒜築港跡地

## - 幻の国家プロジェクト -

のびる

野蒜は、明治維新後の東北開発の拠点として造営された、わが国初の洋式港湾都市でした。オランダ人ドールンの設計により、鳴瀬川河口に内港、さらに北上川と野蒜港、松島湾、阿武隈川までを運河で結ぶという壮大な国家事業だったのです。

鳴瀬川河口には新市街地が造られ、民有地の区画は競売にかけられました。また、明治15年(1882)には内港が開港して、蒸気船が運河をはしるなど、東北期待の物流拠点として開発が行われました。



市街地跡に残る新鳴瀬川橋台跡 (野蒜築港ファンクラブ提供)



野蒜港之図 . 明治14年刊 (東北大学附属図書館所蔵)



同図市街部の拡大

しかし，明治17年(1884)9月に台風が襲い，港は壊滅的な打撃を受けます。また，ドールンのオランダ式低水利技術が，日本の国土には通用しなかったともいわれ，明治政府はさらなる開発を断念しました。

ここに，大久保利通らが描いた東北開発の国家的土木プロジェクトは挫折してしまいましたが，野蒜を中心とした交通網整備は，東北の近代化に大きな影響を与えたのです。

新市街地区跡，築港碑，鳴瀬川河口・東西突堤跡，  
新鳴瀬川橋台跡，測候所跡などが残る  
東松島市，選奨土木遺産



鳴瀬川河口の突堤跡 (野蒜築港ファンクラブ提供)





野蒜築港跡の碑（野蒜築港ファンクラブ提供）



野蒜築港資料室

10:30 ~ 15:30 , 水曜休館 入場無料  
Tel. 0225-88-4624

# 北上・東名・貞山運河 - 日本最大の運河群 -

野蒜築港にともない，野蒜（鳴瀬川）から北上川までの北上運河，野蒜から松島湾までの東名運河が開削されました。それと同期に，松島湾から阿武隈川までの貞山運河が開通し，ここに日本最大規模約50kmの運河群が成立したのです。



# 北上運河

## - 蒸気船がはしった運河 -

北上運河は、野蒜から北上川（石巻市）を結ぶ、全長約13kmの運河です。ドールンの設計により、野蒜築港と同時期に着工され、明治14年(1881)に開通しました。

これにより、宮城県北部から岩手県にかけての北上川流域までが、野蒜港の後背地になる予定だったので。

石巻市，選奨土木遺産



新鳴瀬川付近から見た北上運河（野蒜築港ファンクラブ提供）



# 石井閘門

## - 日本最初の洋式閘門 -

ドールンの構想となる北上運河は、野蒜築港事業の最初に位置づけられました。北上川からの入口となる閘門こうもんは、明治13年(1880)に竣工しました。

日本最初の洋式閘門として、東京から運輸された煉瓦による水門となりました。日本で一般的に煉瓦水門が現れるのは、明治20年代以降になります。

名称は、当時の土木局長の石井省一郎の名をとったものです。

石巻市，国指定重要文化財・選奨土木遺産



石井閘門（野蒜築港ファンクラブ提供）

# 貞山運河

## - 政宗が残した遺産 -

明治政府は、既に江戸期に舟運のため開削されていた掘を拡張し、松島湾から七北田川口、名取川口、阿武隈川口を連結する、全長約33kmの運河が明治8年(1875)に開通しました。名称は、この運河の開削を最初に命じた伊達政宗の<sup>おくりな</sup>縊「貞山」によるものです。

現在はレガッタ練習コースや自転車道路が整備されている、松並木の美しい川岸となっています。

仙台市、選奨土木遺産



貞山運河 (貞山運河ブルーツーリズム実行委員会提供)

# 東名運河

## - 不運の運河 -

東名運河は，松島湾（東名）から野蒜を結ぶ，全長約3kmの運河です。北上運河の開通，野蒜内港の竣工に続き，明治17年(1884)に開通しました。

ここに，名取川流域のみならず，阿武隈川流域までの水路が完成しましたが，同年9月の台風により，野蒜は壊滅的な打撃を受けてしまったのです。

東松島市，選奨土木遺産



東名運河（野蒜築港ファンクラブ提供）

# 関山新道

## - 山形との陸路開通 -

野蒜を中心とした東北全域の交通網整備の中で，山形県令の三島通庸は大きな功績を残しました。

三島は，明治14年(1881)米沢・福島間に<sup>ばんせいたいろ</sup>万世大路（栗子トンネル）を開通させたのに続き，明治15年(1882)仙台・山形間に<sup>せきやま</sup>関山新道（関山トンネル）を完成させました。

関山新道の開通により，仙台山形間の交流が盛んになりました。特に明治20年(1887)東北本線が塩釜まで開通すると，東京からの物資や文化の流入が増え，秋田や青森方面もその後背地となったのです。

仙台市



関山トンネル完成当時の石版画（東北大学附属図書館所蔵）



# 北仙台駅舎

## - フランス屋根の駅 -

JR仙山線の北仙台駅舎は、昭和4年(1929)仙山東線着工時に建設された木造建築です。仙山線全線の開通は昭和12年(1937)で、県庁所在地同士を直接結ぶ全国でも数少ない鉄道路線となっています。

建物は、2段勾配のマンサード屋根（フランス屋根）に、ドーマー窓（屋根窓）をはじめ半円アーチ窓を多用した、洒落たつくりとなっています。

仙台市



北仙台駅舎

# 三居沢発電所

## - 水力発電発祥の地 -

現在の交通公園（牛越橋）そばにある三居沢は，明治21年(1888)に日本初の水力発電所が誕生した地です。明治27年(1894)には電灯事業を開始し，仙台市内に電気を供給することとなりました。

現在の建物は明治42年(1909)に建て替えられたもので，翌年から現在の発電機による運転を開始しました。電力により近代化を支えた三居沢発電所は，今でも電力を供給し続けているのです。

仙台市



三居沢発電所

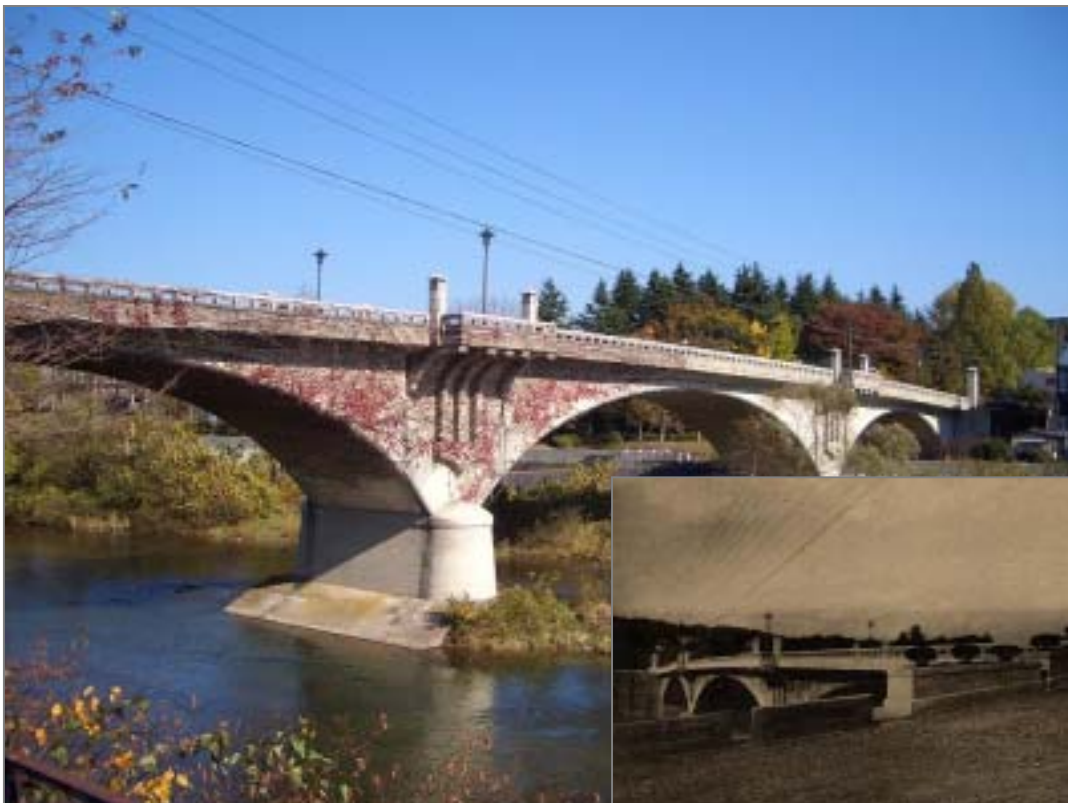
# 大橋

## - 杜の都の大手筋 -

青葉城址に向かう途中で広瀬川にかかる現在の大橋は、昭和13年(1938)に竣工した鉄筋コンクリートのアーチ橋です。

特異な持送りで支えられた矩形のバルコニー、和風デザインの親柱・照明灯など、青葉城址に向かう大手筋にふさわしい景観を作り出しています。

仙台市



現在の大橋と竣工当時の大橋

# 霊屋橋

## - 大橋に先立つ和風橋 -

米ヶ袋から瑞鳳殿に向かう途中の、幅が狭く、広瀬川でもっとも深い「源五郎淵」にかかる<sup>おたまや</sup>霊屋橋は、大橋に先立ち昭和10年(1935)に竣工した鉄筋コンクリートのアーチ橋です。

開腹部がアーケード状で、大橋と同様に白い和風の装飾をもち、瑞鳳殿近隣の広瀬川の渓谷景観に適合したデザインとなっています。

仙台市

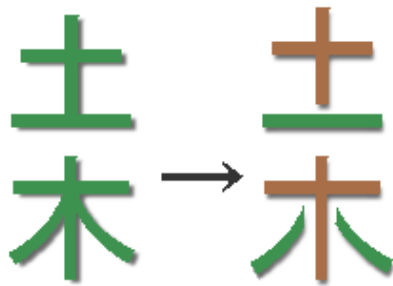


霊屋橋



# 土木の日の理由

なぜ，11月18日が土木の日なのでしょうか。  
土木という文字を分解すると，その由来が分かります。



また，土木学会の前身である「工学会」の創設が，  
明治12年(1879)11月18日であることも，その理由  
であるといわれています。  
( 社団法人土木学会HPより )